



ネパールのコミュニティ開発

～人の生活を守る^{イコール}自然を守る～

白井 恵花さん(ネパール・グルミ郡タムガス在住、川崎市出身)

JICA 青年海外協力隊員 任期:2017年1月から2年間

▲村の子どもと一緒に(本人:右)



▲ネパールの代表的なごはん「ダルバートセット」



▲マチャプチュレベースキャンプから見えるアンナプルナ峰



▲赴任地タムガス



▲村の女性グループと一緒に

ナマステ！エベレストでお馴染みのネパール、みなさんをご存知でしょうか。神々しいヒマラヤ山脈を一目見ると、今まで悩んでいたこともちっぽけに思えてしまう、そんな絶景がこの国には広がっています。

「面白い！」がいっぱい

ネパールには様々な民族、カースト(世襲の階級制度)、宗教が入り混じっています。ネパール人という、褐色で目が大きいインド系の民族を思い浮かべる方も多いかもかもしれませんが、日本人のようなモンゴリアン系の顔をした民族もたくさんいて、私もすっかりネパールに馴染んでいます。食事は1日2回のダルバート(ごはん^{しらい}と豆のスープ^{あやか})が基本で、お店でのおかわりは無料！おかわりになるお肉や野菜は日替わりで、子どもから大人まで上手に右手で食べます。さまざまなスパイスが混じっており、

毎日食べても飽きない美味しさです。

自然との共存

首都カトマンズを出発し、西方の都ポカラでバスを乗り継ぐこと2日間……活動の起点となっているグルミ郡タムガスまでは、デコボコした未舗装の長い道を経てやっとの思いで到着です。

私は青年海外協力隊・コミュニティ開発隊員*としてタムガスの土壤保全事務所に配属され、コミュニティ開発と緑化計画というプロジェクトに携わっています。ネパールでは多くの人々が村落部に居住し、生活と自然が密接に関わっています。人々の生活を守るためには自然も守っていかねばなりません。私の活動は、村落部に居住する人々の生活向上と自然保護がテーマです。

生活向上や地域活性化を求める村の女性たちで作るグループでは、参加者から集める活動費と土壤保全事務所からの補助金を財源として、収入向上のための活動を行っています。ネパールの村落部の人々の多くは家畜や畑を所有していて、女性グループの人たちも家畜や野菜を売って収入向上に繋げようと頑張っています。よりよい活動になるよう、私はトレーニングを行う等のサポートをしています。

愛にあふれた国ネパール

ネパールの人たちはみんな、人懐っこくおしゃべりが大好き。「ナマステ！」と一言挨拶をすれば笑顔になり、「ごはん食べた?」「ちょっとここで休んでいきなさい!」と愛情をもって接してくれます。そんな愛にあふれたネパールで残り1年の任期、愛情をもって全力で活動していきたいと思っています!

(文・写真: 白井 恵花さん提供)

* コミュニティ開発とは: 地域に住む人々とともに、住民が望む生活向上や地域の活性化に寄与することを目的とし、住民自身自身が地域の資源やさまざまな課題に気づき、話し合いを通して解決策を探していく。さらに、実現可能なプロジェクトを計画・実践し、地域にふさわしい事業と協力支援活動の展望を示すことも活動のひとつ。
(JICAホームページより抜粋、編集)

【お知らせ】



次期JICA ボランティア

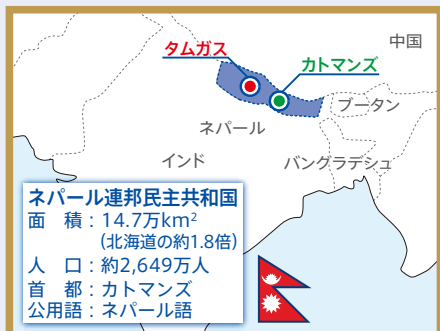
応募期間 4/2～5/1

年2回、春と秋にJICAボランティアを募集しています。事業概要や応募方法など、詳しくはJICAのホームページをご覧ください。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html>

2018年度より、ホームページを中心にボランティア関連情報を発信します。なお、JICA横浜では随時、応募相談を受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

TEL : 045-663-3220



ネパール連邦民主共和国
面積: 14.7万km²
(北海道の約1.8倍)
人口: 約2,649万人
首都: カトマンズ
公用語: ネパール語